

あなたが1日に関わる人たちがロボットだったら？

社会班：岩城 植松 河本 小西 坂苗 吉村

1. はじめに

最近、ロボットがさまざまな仕事をしているのを見て、「どんな仕事ならロボットに代えてよいのか」について興味を持った。そこで、人々はこういった基準で、どんな仕事ならロボットに代えてもいいと考えているのかを、アンケートをもとに研究した。

2. アンケート1

高津高校1, 2年生に、電車の運転手、国語・数学・英語・体育・保健室の先生、食堂のおばちゃん、コンビニの店員、レストランの店員、アナウンサー、の10の仕事について、「この仕事はロボットに代えてもよいか」について、「はい」か「いいえ」とその理由をアンケート形式で答えてもらった。

3. 結果1

全体として「はい」が33%、「いいえ」が67%となった。

仕事別に見ると、電車の運転手、食堂のおばちゃん、コンビニの店員、レストランの店員では「はい」の割合が大きくなった。〇〇の先生、アナウンサーでは「いいえ」の割合が大きくなった。

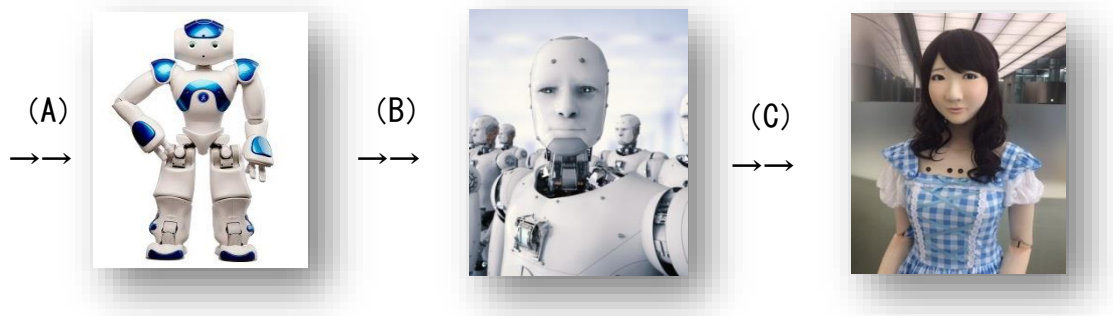
4. 考察1

「はい」の割合が大きい仕事は、私たちの側から話したり関わったりする仕事で、「いいえ」の割合が大きい仕事は、仕事をする側から私たちに関わってくる仕事だと考察した。

しかし、この考察は判断する基準が曖昧であったため、考察を深める必要があった。そこで、先ほどのアンケートの結果を元に、ロボットの見た目が影響を与えているのではないかと再度考察し、2度目のアンケートを行った。

5. アンケート2

高津高校の2年生に、アンケート1と同様に(国語・数学・英語・体育の先生は「学校の先生」に統合)「(A) (B) (C) それぞれのロボットに代わってよいと思うか」について、アンケート形式で答えてもらった。



6. 不気味の谷現象について

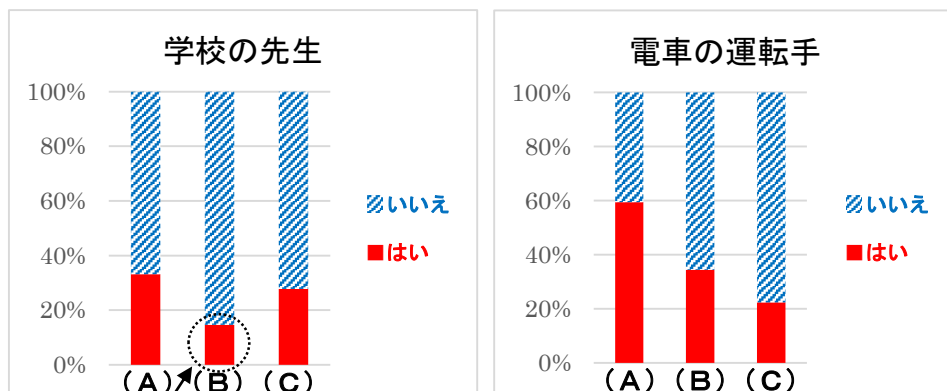
人間を模した描写において、その容姿が実際の人間に近づいてゆくとき、「ある1点」で嫌悪感や薄気味悪さが強く現れることがある。私たちは、アンケート2において、上記 (B) のロボットが、「ある1点」に当てはまるロボットであるとした。

7. 結果 2

「不気味の谷現象」が現れるということは、(B) のグラフの「はい」の割合が小さくなるということである。

「不気味の谷現象」が現れた仕事は、学校の先生、保健室の先生、食堂のおばちゃん、レストランの店員、アナウンサーだった。

反対に、現れなかった仕事は、電車の運転手、コンビニの店員だった。



この部分が「不気味の谷」である可能性が高い。

8. 考察2および結論

全体的にロボットに対して否定的な意見が多いが、それは特に複雑なコミュニケーションが求められる仕事に顕著にみられる。

また、私たちが顔を合わせる仕事をロボットに代える場合、不気味の谷現象に応じたロボットの外観にする必要がある。

9. 参考文献

<https://robotnaut.net/archives/5/attachment/3>